

【東京都豊島区】

人口密度が高い自治体は出生率が低下する傾向があるが、東京都豊島区の人口密度は全国の市区町村で最も高い 21,530 人/㎢、合計特殊出生率は最も低位の 0.81（平成 20 年～24 年人口動態保健所・市区町村別統計）となっている。

豊島区は、1932 年の東京市郡合併により、それまで北豊島郡下にあった巢鴨町・西巢鴨町・長崎町・高田町の 4 つの町が統合され誕生した。東京 23 区の西北部に位置し、人口は 280,111 人（平成 27 年 8 月 1 日現在）、面積は 13.01 ㎢である。

区内には、鉄道 5 社 13 路線が走るなど、交通網の発達したとても便利な街である。区を中心に位置する池袋駅の周辺には、複数のデパートやサンシャインシティなどの商業施設やオフィスビルが集積し、新庁舎整備を機に連鎖的な副都心再生が進むほか、区内各地域で、地域の再生や活性化に繋がるまちづくりが展開されている。2010 年国勢調査における産業別就業者数及び構成比は、第一次産業 92 人（0.1%）、第二次産業 13,851 人（14.3%）、第三次産業 82,936 人（85.6%）と、第三次産業の就業割合が高くなっている。

区内有数の繁華街として開発や発展が続く一方、古き江戸・東京の雰囲気を残す鬼子母神界限には、東京で唯一残る都電が走り、日本ユネスコ協会連盟の「プロジェクト未来遺産」として登録された雑司が谷には明治の文豪夏目漱石らの眠る霊園や旧宣教師館が、そして巣鴨には、おばあちゃんの原宿として知られる巣鴨地藏通り商店街がある。また、駒込は日本を代表する桜の品種「ソメイヨシノ」発祥の地といわれている。

2014 年 5 月、民間有識者組織の「日本創成会議」が発表した全国自治体の将来推計人口により、豊島区は東京都 23 区で唯一、2040 年に 20～39 歳の若年女性が半減し、人口を維持することができない「消滅可能性都市」とされた。現在は転入人口に支えられ人口の増加が続き、合計特殊出生率も 0.99 と回復傾向を示しているが、人口減少の克服は日本全体の課題という認識のもと、「女性にやさしいまちづくり」、「地方との共生」、「高齢化への対応」「日本の推進力」の四つの方針を柱とし、安全・安心なまちづくり、文化の多様性を生かした国際アート・カルチャー都市づくりなど、持続発展都市を目指した取組みを進めている。